

第8回ACMECS首脳会議に際する 安倍総理大臣メッセージ

平成30年6月16日

議長国であるタイのプラユット首相、フン・セン・カンボジア首相、トンルン・ラオス首相、ウィン・ミン・ミャンマー大統領、フック・ベトナム首相、ご列席の皆様。第8回ACMECS首脳会議の開催をお喜び申し上げます。

私はこれまで、メコン各国を度々訪問いたしました。若く将来有望な人々、豊かな自然、活気にあふれた街。メコン各国の将来は約束されていると確信します。日本は、メコン各国と共に、地域の平和と安定、繁栄を実現していきたいと願っています。

今回の首脳会議で策定される「ACMECSマスタープラン」は、地域の将来にとり、非常に重要です。その柱となるシームレスなインフラ整備、ソフト面での連結性強化、そして人材育成。これらは日本のメコン地域への支援の方向性と軌を一にしており、日本は1年前の構想段階から、その策定を強く支持してきました。今年で10年を迎える日メコン協力と、効果的に連携させていきたいと思います。

日本は、連結性を「生きた」ものとする、すなわち、インフラ整備のみならず、これを有効に活用し、地域の発展につなげることが重要と考えます。質の高いインフラによる道路や鉄道、橋、港などの整備に加え、これらの維持管理を担う人づくり、通関の制度づくり、外国企業が進出しやすい環境整備などで協力しているのは、そうした考えに基づきます。

「人」は発展の鍵です。我が国による産業人材育成、例えば、専門家や青年海外協力隊による現場での協力や日系企業内での教育は、地域の発展に大きく貢献してきたと自負しています。近年、日本への留学生も増えています。お互いの国や人を知る人材が架け橋となり、地域のリーダーとして活躍されることを期待します。

インド太平洋地域は世界の成長センターであり、この地域を自由で開かれたものとし、その平和と繁栄の礎となる国際秩序を維持・強化していく必要があります。この観点から、人道支援・災害救助にかかる能力構築や、海上法執行能力の強化支援などを進めて行きたいと思います。

本年、メコン各国の首脳を日本にお招きして、日メコン首脳会議を行い、

日本とメコン地域の将来につき有意義な意見交換をすることを楽しみにしています。

日本国内閣総理大臣 安倍晋三